

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>在宅での暮らしの大切さ、延長線であることを理解し、その方らしい暮らしへの支援を考え作り上げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念をスタッフルームに掲示し、家族にも理解していただいている。週1回のミーティングや日々の関わりの中で、理念にそった支援が出来るように努めている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>契約時、家族会及びご利用者様の变化への対応時に、理念に基づいた説明をし、理解をしていただいている。地域の方々へ対するご理解への取り組みとして「みちの木まつり」を開催したが、十分とは言えない。</p>	○	<p>日常生活の活動はご理解いただいていると思うが、確認には至っておらず、職員内で更に検討し、ご理解につなげていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常的な挨拶はもちろん、庭の手入れ、除雪作業などアドバイスをいただくこともある。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>ホーム主催でお祭りを開催し、地域の方々に参加していただいている。また、町内会・区のお祭りなど、可能な限り参加するよう努めている。小学校の資源回収場所に指定していただいている。</p>	○	<p>ご利用者様に負担が掛からないように考慮しながら、地域活動に参加することを検討していきたい。(子ども110番など)</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>3年目に入り、ご利用者様への支援の基盤は確立されたが、地域高齢者等に対しての貢献を考えた取り組みは行われていない。介護への情報を提供出来るよう見えるところに呼びかけを掲示している。</p>	○	<p>近隣の高齢者へは、日常の中で得られた情報は共有出来るようにしているが、取り組みとして行うために、更に工夫していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価後の改善点・問題点は方法等を検討し、いち早く改善している。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	行事報告(予定)、事故(ひやり・はつと)報告および分析・対策、スタッフのご利用者様及びご家族への対応などの報告を行い、意見・提案に対して検討し、サービスの向上に取り組んでいる。	○	よりサービスの向上に努めるよう、定期的に来れる方法を検討し、開催に結びつけたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者とは、不明点などはその都度、電話にて指導・情報・助言をいただき対処、向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会があれば、積極的に参加しているが、職員への落とし込みには至っていない。現在のところ、必要な方がいないため活用されていないが、必要性に応じて支援していきたい。	○	職員に情報・制度を落とし込める研修の場を持てるよう努める。また、必要時、最新の正しい情報を提供出来るように、今後も研修等に参加する。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	随時話し合う機会を設け、虐待に対する意識を高めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	すべてを読み上げ、重要な箇所はより理解して頂けるように補足している。不安・疑問点は必ず尋ね説明をしている。その場だけでなく、後日の質問等に対しても説明している。	○	質問時は、その都度、理解・協力していただけるようにお話していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見・不満・苦情に対しては、必ず状況確認し、改善すべき点は行い、結果報告も行っている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月、一ヶ月の行事報告、個々の暮らしぶり・健康状態の報告を郵送している。金銭管理は出納帳にて行い、来訪時に確認いただいている。職員移動は、来訪時にお伝えしたり、スタッフ紹介書(顔つき)を作り配布している。</p>	○	<p>暮らしぶり・健康状態の報告は、キーパーソン以外のご家族・肉親も楽しみにしていると聞いているので、今後も継続していきたい。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>来訪時に個別にお伺いしているが、家族会(ご利用者様同席)を開催し、全体的意見も伺い、運営に生かしている。</p>	○	<p>ご利用者様が同席しない場も提供できるよう、調整したい。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日常的に職員の意見・提案を言える状況を作っている。個人面談を開催し、個々に確認している。</p>	○	<p>半年に1度は機会を設け、職員もホームを作り上げていることに参加している意識が持てるようにしていきたい。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>ご利用者様・ご家族にご理解、ご協力をいただきながら、出来るだけ努めている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>工夫・検討をしながら最小限に抑える努力はしている。ご利用者様へのダメージの配慮は個々に合わせ行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	採用時に社内マニュアルを使用し、心得を中心とした研修を行っている。また、外部研修の情報を都度知らせ、積極的な参加を促している。	○	社内研修内容を日常の介護技術等の向上のみならず、多岐に渡って取組んでいきたい。(コミュニケーションの大切さ、接遇など)
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は区内ケア連絡協議会への定期的参加にてネットワークを広げている。職員は全道規模のグループホーム職員のステップアップ研修(2日間)や清田区管理者会開催の研修・清田区グループホーム交流会等に参加している。ネットワーク作りも兼ねているが、全職員には至っていない。	○	管理者と一部職員は、同業者のグループホーム部会研修も随時参加しているが、他の職員も参加していけるよう配慮していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	新年会・みちの木祭り・親睦会及び個人面談等を行っている。管理者とは、一人で問題を抱え込まないよう、個別ミーティングを重ねている。	○	親睦会・個人面談等の機会を増やしていきたい。これらにより、相互話ができる雰囲気づくりに努め、ストレスがたまらないように見守っていききたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	年に1度、介護福祉士の資格を取得した職員や勤続年数の長い職員を表彰している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族やケアマネジャー、医療ソーシャルワーカーからの情報も加味しながら、ご本人自身から聴くことが出来るように、状況を見極めながら努力している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	大変重要なことなので、了承をいただきケアマネジャー、医療ソーシャルワーカーなどからも情報収集を行い、困っていること等を引き出せるような促しも行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	聞き取りにより、訪問系の他のサービス利用の確認や状況、時により提案・助言が出来るよう努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人の状態やご希望により、入居前に数時間体験したり、行事に参加していただいたこともある。家族と細やかな情報交換やご協力等もお願いし、馴染んで頂けるような、その方に応じた色々な方法を試みている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は時に、子供であり、嫁であり、友人であり、喜怒哀楽が表出できるような関係性を心掛けている。季節行事の内容、準備や調理方法等、暮らしの中で学ばせていただいていることは多い。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	情報はお伝えし、共にご利用者が安心して過ごすことができる環境作りを考える。行事には参加していただけるようにしている。(誕生会・清田区グループホーム交流会・みちの木祭り・外出行事等)		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居前の関係性を理解し、ご利用者様にとってご家族との関係の大切さを忘れずに支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時間は決めておらず、いつでも立ち寄っていただける雰囲気作りに努めている。馴染みの場所への支援にはご家族にご協力を求めることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	その時の状況を見極め、良い関係が保てるような促し、声掛けを行っている。職員はミーティング等で情報を共有し対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	相談等に応じている。気軽に来訪していただけるよう、お話している。ご希望であれば、行事の連絡も行っていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中から抽出できるよう心掛けている。希望・意向は、ケアプラン作成時やミーティングで検討。困難なときは、ご家族からも情報を頂く。	○	希望・意向を聞く場としては設けていない為、そのような場を作ることも必要であるとする。今後、検討し実施したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式にて、ご家族に情報をいただいている。暮らしの中で得た情報で疑問なことは、その都度、確認している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	これまでの暮らしのリズムを把握し、ホームでの過ごし方の理解に生かしている。心身状態、有する力は、職員の意見を聞き、暮らしの中で生かせるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご利用者様には暮らしの関わりの中で、ご家族には来訪時や電話連絡にて行っている。職員は介護計画の結果を各々で考え、意見・アイデアを反映している。医師・訪問看護師にも相談・指導をいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間内であっても、ご本人・他ご利用者様にとって再検討の必要性がある時は、カンファレンスを行い、計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録や週1回ミーティングにより、情報共有をしている。緊急性の高いものは、その都度検討し、日内で対応。ミーティング時、実践の見直しを重ねている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	介護への情報の発信場所となれるよう、見える場所に呼びかけの掲示をしている。	○	今後も、機能を生かした支援について考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	学生、演奏のボランティアを受け入れている。警察にはご利用者様の名簿を提出している。管理者は甲種防火管理者資格を取得し、消防署に防災管理者選任届書を提出している。	○	情報収集に努め、より良い暮らしへ生かしたい。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	家族とも相談した上で、必要なサービスについて、ケアマネジャー及びサービス事業者から情報をいただいたり、話し合いを行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現状として必要性がある方がいないため、協働には至っていない。	○	必要に応じて、敏速に協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	不明な点は質問し、理解できる指導・指示をいただいている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症老人専門外来を受診し、詳しい状況を伝え、指導・指示をもらっている。電話でも対応していただいている。ご利用者様にとって、良い状況を保てるよう支援している。状態により、ご本人が受診出来なくても、相談できる体制になっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護師により、健康管理への指導・助言をいただいている。必要に応じ、医師への情報提供もしていただいております、受診時に生かされている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	要求された情報は提出している。医療ソーシャルワーカーとの情報交換・提供、相談を行っている。	○	双方にとって更に良い連携を取るために、現在、環境整備中である。2月中には確立される予定。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現状として、そこに至る方がいないため、方針の共有はされていない。	○	生活の様子、健康状態、医師との連携により、出来るだけ早い段階に意向を確認し、方針を共有できるよう努めたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後の変化に備えての医療機関との連携、対応はチームとしての話し合いを行うことになっている。	○	必要時には、チームとして支援できるよう、取り組みについて話し合い、ご利用者様にとって良い状況を作り上げたい。事業所の「できること・できないこと」は検討していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えがある時は、ご利用者様にとってご負担にならないよう、情報提供・交換、話し合いは行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>徹底しているが、言葉遣い・対応に疑問を感じたときは、考える機会を持ち、改善へ向けている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>その方がわかるように色々な方法・言葉を用いて、焦らすことなく、一緒に考えながら自己決定へと導いている。また、一人の時(居室内・通院時等)に希望が表出できるように意図的に促している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご利用者様同士の会話の中で聞かれた希望を出来るだけ取り入れている。(外出・お茶会・レクレーション・入浴等)</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>生活を楽しんでいただけるよう、爪きりの際はさりげなくマネキュアを提案し、化粧を促している。季節・外出に合った言う服を、一緒に選んでいる。理・美容は訪問美容を利用している。また、ご家族にご本人の希望を伝えている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>普段の関わりの中で、好みや希望を確認している。材料やメニューを伝え、楽しみを持ちながら準備をしていただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医療面で支障のないものに対しては、支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ミーティングで排泄状況の確認、皮膚状況の確認を行い、おむつの使用が適切であるかどうか検討し、対応している。習慣とこだわりを活かして、排泄行為へと結びつけている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を嫌がるご利用者様には、ご本人にとって良い状況を作るように努め、タイミングを逃さぬように職員が連携を取りながら関わり、納得し楽しんでいただけるよう配慮している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝・起床時間は特別設けていない。状況に応じて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活内での役割は、ほぼ確立されている。出来るだけ屋外へ行けるよう、外出行事を心掛けている。また、季節の行事、誕生会(ご家族参加)は必ず行うようにしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持している方は数名だが、預かり金の中から、買い物・支払いをしていただくこともある。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限り対応している。職員との会話やご利用者様同士の会話から、希望を抽出することもあり。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	出来るだけみんなで行ける場所を検討し、実施している。早くから予定が組める時は、ご家族にも連絡網にて回していただき、参加を促している。(定山溪足湯・札幌ドーム・工場見学・梅林公園・初詣等)		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月に1度、ホーム内にてご利用者様のご家族にて、絵手紙教室を開催している。作品はご家族や兄弟・友人など、ご本人が希望するところへ郵送している。電話も自由に使っていただいている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問していただけるように、面会時間は決めていない。急な外出も多いため、会えないことがないようにご一報いただけるようお願いしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	抑制に結びつく言葉にも気をつけ、拘束防止に取り組んでいる。	○	定期的に理解する必要があるため、ミーティング・研修等にて、これからも拘束しないケアを継続したい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	実施している。行動パターン・特徴・こだわり等を理解することで、施錠しないケアが出来ている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は他の職員の動きを把握し、連携を取りながら、ご利用者様の所在、様子の把握に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	状態を見極め、職員内で検討し取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	救急救命講習を受講。服薬については、薬局と連携を取ることで知識へと結び付けている。ご利用者様の身体的状況の変化は、ミーティングにて確認し、関わりを統一することで事故防止へ繋げている。	○	救急救命講習は定期的に再受講が必要であり、まだ受講していない職員もいるため、受講の機会を作る。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的には行えていない。	○	救急救命講習は定期的に再受講が必要であり、まだ受講していない職員もいるため、受講の機会を作る。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	町内会長に推進会議に参加していただき、ご理解と協力は約束いただいている。避難経路は確保しているが避難方法の確立には至っていない。	○	防災訓練を実施し、避難方法を身に付ける。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	電話、訪問時、お便りにて説明・報告し、対応策の相談・提案を行い、より良い対応に努めている。ご家族の協力が必要なときはお願いしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェック、顔色、行動、訴えなどから変化を読み取り、速やかに職員内で確認し対応している。必要により病院に指示を仰ぐこともあり。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	必要時、すぐに確認が出来る方法を周知している。服薬支援は、誤薬がないように確認作業を何度も行える体制をとっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一人一人の体質・周期を理解し、医師・訪問看護師とも相談し指示をもらっている。飲み物の提供(ヤクルト・牛乳)、食事の工夫、マッサージ等を行い、出来るだけ自然排便を促せるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯磨きの促しを行っている。また、訪問歯科・口腔ケアが入り指導いただいている。歯ブラシ・コップも定期的に消毒している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	疾病に合わせ、食事量を調整している。受診時の定期的な血液検査の結果を栄養バランスに活かし、調理の工夫を心掛けている。水分量は食事・服薬・おやつ時・牛乳にて確保できるようにしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種を受けている。次亜塩素酸ナトリウムの希釈溶液は常に用意しており、日常的に使用している。血液、排便の処理など感染症予防に努めているが、取り決めがないものもある。	○	知識として持っている職員もいるが、高齢者がなりうる感染症全てではないため、症状・対応方法を理解し予防・対策が出来るよう、研修などで取り上げたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	賞味期限が近いものは書き出し、優先的に使用するようになっている。布巾、まな板の消毒を行っている。後片付けご利用者様と行うが、洗いは職員が担当している。季節に応じた対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープを設置している。玄関先はなるべく、駐車しないようにし、花壇や風除室を利用し季節に合わせた手作りのもの等を飾っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出窓を利用し、季節を感じられるものを作り飾っている。不快な音や光に対しては、適切な対応に努めている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	バルコニー前の階段踊り場に椅子を設置したことで、一人で過ごされたり、ご利用者様同士で集まり談話したり、洗濯物片付けなどの場にもなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく、馴染みの物、好みの物を用意していただき、自分の部屋と理解していただき、安全で心地の良い住空間となるよう相談し、活かしてしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝の掃除時は、居室の窓を開けて行っていただけるよう促している。ホーム内の臭いの対策には、炭を使い脱臭している。温度調整は温度サーモにより管理している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	手すり・エレベーターを設置している。バリアフリー対応である。	○	身体機能に合わせ、手すりの増設などの必要性を、定期的に検討する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	見極めを慎重に行い、失敗・混乱ないようにアドバイスしながら自信を持っていただき、少しでも次へつなげていけるよう支援している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭で野菜を作り収穫作業・食事を楽しまれ、花壇は見ることで育てることを楽しまれている。2Fバルコニーでもプランターにて野菜作りをし収穫している。また、夏は涼みの場として、冬は雪を利用し雪だるま作りなどを楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

在宅生活の延長であることを考え、より家庭に近い環境づくりを心掛けている。心からの笑顔の引き出しと、ご利用者様の心身の活性化を考え、楽しんでいただける外出を常に企画・実施している。また、食事も楽しみの一つであるため、旬のものを取り入れ、出来るだけ多くの食材を使用し、盛り付け等にも工夫している。誕生会、季節の行事の際は、更にアイデアを出し合い、喜んでいただけるように力を入れている。地域に根ざすことを目標に、「みちの木祭り」を職員全員で企画・開催している。